

## 平成 28 年度年度事業評価監視委員会 再評価付帯意見に対する取組

- ① No. 37 の街路整備事業 JR 東海道本線・JR 御殿場線（沼津駅付近鉄道高架事業）については、事業期間が長期にわたることから、事業期間中においても踏切遮断時間の短縮による交通の円滑化や、防災力の向上などの効果が順次発現されるよう計画的な整備に努められたい。また、事業の実施に際しては、引き続き、沼津市との連携により事業の推進体制を確保するとともに、地域住民にも丁寧に説明しつつ、事業関連地域のまちづくりが円滑に進むよう努められたい。

## （街路整備課）

現在、事業期間中における事業効果の早期発現を目的として、高架工事の施工に合わせた仮設の南北自由通路の設置の検討を進めている。引き続き、事業効果が順次発現されるよう計画的な整備を進めていきたいと考えている。

また、まちづくりの機運を高め社会総がかりで事業を進めていくために、事業効果や沼津の将来像などについて、広報紙や SNS を用いて情報発信するとともに、パネル展示による事業説明や出前講座など沼津市と連携して広く市民と意見交換を行っているところである。

- ② No. 41 の農地整備事業（畑地帯担い手育成型） 矢部については、本地区が風光明媚であるという立地状況を踏まえ、引き続き景観に配慮した整備を実施するとともに、整備後においても都市と農村との交流を促進する取組などにより、有効活用が図られるよう努められたい。

## （農地整備課）

地元農家、土地改良区、JA しみず、静岡市及び県で組織する「農村景観保全検討会」は、日本平地域にふさわしい景観を保全することを目的に昨年度、「農村景観保全指針」を策定した。本指針に基づき、県営事業においては、景観に配慮した整備を進めている。さらに、地元農家は、農業用施設の色彩をルール化し、防風ネットの支柱をダークブラウンに塗装するなど積極的に農村景観保全活動に取り組んでいる。

また、整備後は、矢部地区の美しい景観を活かし、都市と農村との交流促進を図るため、他地区で過去 9 回開催され、延べ 3,000 人の参加実績のあるミカン園でのウォーキングイベント等の導入を関係機関に働きかけていく。

③ 事業の実施に際しては、品質確保とともに、他事業との連携などにより、一層のコスト削減や事業間の相乗効果、幅広い波及効果の発現に努められたい。

(交通基盤部政策監)

県民が必要とする社会資本を最も効率的、効果的に提供するため、公共工事の品質確保とともに、建設発生土等の再生資源の有効活用や新技術・新工法の導入等によるコスト削減や、事業の選択と集中を進めることにより、ストック効果が最大限発揮されるよう社会資本整備に努めてまいります。

④ 事業の費用対効果の算定手法等については、必要に応じて分かりやすく情報提供するなど、県民の理解が深まるよう広報に努められたい。

(交通基盤部政策監)

事業の広報にあたっては、社会資本整備により得られる県民のメリットをストック効果としてまとめるなど、県民に分かりやすく示していきます。